

# フォレストニュース

植林が地球を救う

令和3年(2021)1月10日

No. 157

発行 高津啓洋

## 2021年謹賀新年

明けましておめでとうございます。

2021年、今年が希望の年となるように、パラグアイ・レダの地より新たなメッセージを送らせていただきます。

新年を迎えるために恒例の、「綺麗ねレダ清掃」が行われました。トラクターや機械が総動員されながら、綺麗になったレダの始まりです。昨年は、庭師歴23年のシニアボランティアの図師義継さんが、苗木の剪定を1年かけて、



丁寧にまた、植木職人ならではの大胆な剪定によって、皆様方の支援で植樹いただいた木々が新しい芽を吹きだして、見違えるようになりました。

昨年は、コロナウイルス禍で、世界的に移動が難しくなっていました。残念だったのは、青年植樹ボランティアの派遣の中止でした。今年は成



功させたいものです。

## アサドで祝クリスマス

「綺麗ねレダ清掃」が終わると、クリスマス会が始まります。恒例のアサド(焼肉)で、乾杯です。

また、マンゴや、これからはバナナも食べる事が出来ます。これからの収穫は多量のタロイモ、ヤマイモなど、秋に向かっての豊富な収穫が待ちどおしいです。(伊達記)



成長したヤマイモ



バナナの苗木も増えて



本格的なアサド



ハイビスカスも咲きそろって

# フォレストライター

2021年1月10日

これは、昨年の11月21日、パンタナール1 Dayセミナーで、高津啓洋理事長から、講演の中で紹介された内容（AFPの記者の質問に対してグドール氏が答えた内容）の一部を掲載したものです。

**コロナパンデミックの原因は「動物の軽視」 霊長類学者グドール氏**

**●今のパンデミックについてどう考えますか？**

グドール氏：われわれが自然を無視し、地球を共有すべき動物たちを軽視した結果、パンデミックが発生した。これは何年も前から予想されてきたことだ。

例えば、われわれが森を破壊すると、森にいるさまざまな種の動物が近接して生きていかざるを得なくなり、その結果、病気が動物から動物へと伝染する。そして、病気をうつされた動物が人間と密接に接触するようになり、人間に伝染する可能性が高まる。

動物たちは、食用として狩られ、アフリカの市場やアジア地域、特に中国にある野生動物の食肉市場で売られる。また、世界中にある集約農場には数十億匹の動物たちが容赦なく詰め込まれている。こうした環境で、ウイルスが種の壁



を越えて動物から人間に伝染する機会が生まれるのだ。

**●私たちは何に希望を持てば良いですか？**

私たちは自然界の一部であり、自然界に依存しており、それを破壊することは子どもたちから未来を奪うことに他ならないということに気付かねばならない。

世界中で行われている前例のないロックダウン（都市封鎖）という対応によって、より多くの人が目覚まし、ひいては、どうすれば自分たちの生き方を変えられるのかということを考えるようになればと思う。

日々の小さな選択をする時にその選択がもたらす結果を考えるようにすれば、誰でも、毎日、影響を与えることができる。私たちが生活の中でできることは、一人一人少しずつ異なるが、私たち皆が変化を起こすことができる。誰もがだ。

**■これは、2020年1月にダボスで行われた世界経済サミットで、ジェー**

**ン・グドール氏の訴え一部を掲載。「私たちの未来を最も脅かすものは無関心である」**

気候危機について世界中の若者と意見を交わすうちに、ジェーンが感じたのは、「絶望」「怒り」そして「無関心」だった。これまでの持続不可能な資源利用は、公害、生息地の破壊、生物多様性の喪失、さらには気候変動を生んでしまった。

こうした大人たちが生んだ重い課題に直面しつつも、若い世代が希望をもって自発的に環境問題に取り組めるよう、ジェーンは環境教育プログラム「ルーツアンドシューツ」を立ち上げた。名称には「希望の根っこ（ルーツ）が世界中に広がり新芽（シューツ）となって、困難の壁を突き破りますように」という彼女の思いが込められている。

こうして86歳を超えた今でも、世界100カ国以上で森林再生のための年間550万本の植樹や、貧困地域に住む子どもたちへの教育、女性への高いヘルスケア、サステナブルな経済活動などの支援にあたっているジェーン。彼女のイノベティブな活動は、真に持続可能な社会の実現へと一つの線につながっている。

**ジェーン・グドール (Dame Jane Morris Goodall, DBE, 1934年4月3日 - )** は、イギリスの動物行動学者、霊長類学者、人類学者、国連平和大使。

ロンドン生まれ、ボーンマスで育つ。父はビジネスマン、母は小

説家。幼い頃より動物が好きで、アフリカへ行くことを夢見る少女であった。

1966年にケンブリッジ大学でPh.D. を取得（専攻は動物行動学、指導教授はロバート・ハインド）。創立700年を超えるケンブリッジ大学の歴史で8人目となる学士の学位を持たないPh.D. 取得者となった。

スタンフォード大学客員教授（1971年 - 1975年）、ダルエスサラーム大学名誉客員教授（1973年 - ）、タフツ大学招聘教授（1987年 - 1988年）、クリーブランド自然史博物館研究員（1990年）、南カリフォルニア大学特別招聘教授（1990年）、コーネル大学アンドルー・A・ホワイト講座教授（1996年 - 2002年）などの要職を歴任。

1977年に野生動物研究・教育・保護団体「ジェーン・グドール研究所(JGI)」を設立。

2002年にコフィ・アナン国連事務総長より国連平和大使に任命される[1]。2003年にエリザベス2世より霊長類学研究に対し大英帝国勳章を授与され[1] “デーム” の称号を得る。

2007年京都大学から名誉博士号を授与される。現在、執筆の傍ら、世界中を巡り、講演や教育活動を行っている。